

タイトル『珈琲ダイアリー 作家と殺し屋』

○登場人物

・風見仁（30歳） 珈琲の移動販売（キッチンカー）で全国を旅している。飄々とした振る舞いだが、旅の目的は「夢探し」であり、色々な出来事に自ら巻き込まれに行く。暇潰しに琴子の執筆した本を読んでいる。旅のついでに格闘技を身に付けた。

・彼岸花琴子（？歳） 売れっ子の女性作家。妖艶な雰囲気纏っている。狂気的な好奇心の持ち主。退屈を嫌う。執筆している本は殺し屋が主人公。殺人の脅迫文を貰っても怯えるどころか興奮気味。

・寺田幸平（30歳） 殺し屋を生業にしている男。陰気で神経質。自他共に認める程地味で印象に残りにくい見た目。琴子が書いた本の主人公が驚くほど自分と重なり焦る。「自分の手口を世間に広めない為」に琴子を殺しの標的に。仁には琴子の担当編集兼護衛と偽る。

殺しの際には基本、派手な道具は使わない。

シーンⅠ…都内広場

場所…賑やかな広場に位置する仁のキッチン  
カー

広場のざわめき

コーヒーミルが回る音

コーヒーが注がれる音

仁…(元気よく)「次のお客さん、どうぞ！」

琴子…(柔らかい声で)「こんにちは。珈琲一杯ください。」

仁…(親しげに)「かしこまりました。お客さん、お近くの方ですか？」

琴子…(微笑むように)「ええ、マンションがこの近くにあるの。それにしても、いい匂いね。」

仁…(嬉しそうに)「ありがとうございます。」

実は、僕、暇潰しに小説を読むのが好きで…あれ？あなた、もしかして彼岸花琴子さんですか？」

琴子…（興味深げに）「そう、私がその彼岸花  
琴子よ。」

仁…（驚きながら）「本当ですか！感激です！  
あなたの本、いつも読んでます！」

珈琲カップがカウンターに置かれる音

広場のざわめき

シーン…幸平の登場

場所…仁のキッチンカーの前

足音が近づく

広場のざわめき

幸平…（低い声で）「こんにちは、珈琲一杯い  
ただけますか？」

仁…（親しげに）「いらっしやいませ。最近よ  
くお見かけしますね。お仕事ですか？」

幸平…（少し警戒しながら）「ええ、彼岸花琴  
子さんの担当編集兼護衛をしています。彼女  
に脅迫文が届いているんです。なので、警戒

のためにこの辺を見回っているんですよ。」

仁…(驚いて)「それは大変ですね。でも、どうして脅迫文が？」

幸平…(淡々と)「理由はまだわかりませんが、でも、彼女の安全を守るために最善を尽くします。」

珈琲カップがカウンターに置かれる音

幸平が去っていく足音

シーン ☹…幸平の焦り

場所…幸平のアパート

ページをめくる音

幸平の息遣い

幸平…(心の声、焦りと驚き)「こんなに詳しく：まるで俺のことを知っているかのように書かれている。もし世間にこの手口が広まれば、俺は…」

ページをめくる音が止まる

緊張した沈黙

シーン④…再び来店

場所…再び仁のキッチンカー

足音が近づく

広場のざわめき

琴子…（柔らかい声で）「こんにちは、また来たわよ。」

仁…（心配そうに）「琴子さん、実は…あなたに脅迫文が届いているそうです。」

琴子…（平然と）「知っているわ。でも、大丈夫。私は怖くないわ。」

仁…（驚いて）「え、怖くないんですか？」

琴子…（楽しげに）「本物の殺し屋に狙われるなんて、こんなに面白いことはないわ。」

仁の冷や汗をかく音（想像の音）

シーン⑤…琴子殺害計画

場所… 琴子のマンションの前

静かな夜の音

不穏な足音

幸平…(低く決意に満ちて)「これで終わりだ、

彼岸花 琴子。」

仁…(急いで駆け寄る音)「やめろ！ 琴子さんを放せ！」

幸平…(驚いて)「くっ…！」

激しい格闘音

幸平が倒れる音

琴子…(感謝と興奮)「ありがとう、仁君。あな

た、なかなかやるじゃない。」

仁…(息を切らしながら)「いや、琴子さん。無事で良かった。でも、この人はどうするんですか？」

琴子…(微笑みながら)「ふふ、彼には小説の

アドバイザー兼家政婦として働いてもら  
わ。」

幸平が拘束される音

エピソード

場所…仁のキッチンカー

旅立ちの準備をする音

広場のざわめき

琴子…(別れを惜しむように)「またどこか  
会いましょう、仁君。」

仁…(微笑みながら)「はい、また会いましょ  
う。」

キッチンカーのエンジン音

キッチンカーが走り去る音

ナレーション…(仁の心の声)

「こうして、僕の旅は続く。新たな出会いと

冒険を求めて……。また新たな夢探しの旅に出る。」

キッチンカーが遠ざかる音

穏やかなエンディングテーマ